

における石器捏造事件が発覚・報道され、関係者を中心に、ロビーはこの話題で持ちきりであった。

プレナリーシンポジウム（4日）では、平井百樹東京大学教授、植田信太郎同助教授を組織者として「アジアの人類学」と題して、金鋒氏（中国科学院遺伝学研究所）、Francisco A. Datar氏（フィリピン大学人類学科）、Teuku Jacob氏（ガジャマダ大学医学部）の三氏による報告討論が行われた。

さらに、5日には安田講堂において日本人類学会サテライトシンポジウム『日本列島の人口潮流 - ヒトはいかに生まれ死んできたのか -』が公開、開催された。司会、報告者は以下のとおりである。

開会挨拶：木村 賛（日本人類学会会長、東京大学）

司会：大塚柳太郎（東京大学）

- ・縄文からみた弥生の人口 - 小山修三（国立民族学博物館）
- ・縄文時代の出生率と寿命 - 骨からの推定 - 五十嵐由里子（日本大学松戸歯学部）
- ・骨から見た老いと病 - 鈴木隆雄（東京都老人総合研究所）
- ・人生40年の世界：江戸時代の出生と死亡 - 鬼頭 宏（上智大学経済学部）
- ・到達点としての少子高齢社会 - 金子隆一（国立社会保障・人口問題研究所）

これは人類学的視点から人口の歴史的展開をテーマとするシンポジウムであり、日本列島の縄文時代から21世紀に至る巨視的潮流、とりわけそこに生きたヒトの生き様の変遷について、それぞれの時代・テーマの専門家による報告と、フロアを含めての討論が行われた。人類学研究における人口分野の知見の必要性和、人口研究における人類生態学的視点の重要性を再確認させる内容であった。

（金子隆一記）

日本地域学会第37回（2000年）年次大会

日本地域学会第37回（2000年）年次大会は、2000年11月3日（金）・4日（土）、東北学院大学土樋キャンパスにおいて開催され、研究報告、シンポジウム等が行われた。

研究報告のなかで人口学的観点から特に興味深いテーマを扱ったものとしては、次の5報告があげられる。

「少子高齢化の地域経済に及ぼす影響：名古屋市のケース」

信國眞載・徳永澄憲・上山仁恵（名古屋市立大）

「オッズ比分解法の問題点と解決への展望」

樋口洋一郎（東京工業大）

「子育てに適した地域システム実現のための計画策定への参加手法に関する基礎的研究」

寿崎かすみ（三菱総研）・熊田禎宣（千葉商科大）

「戦後日本の人口移動に対する分配所得格差と個人所得格差の説明力（1955 - 1995）」

伊藤 薫（岐阜聖徳学園大）

「商業地の活性化方策が都市活動立地と人口分布に及ぼす影響」 金広文・林豪人（東京工業大）

信國氏らの研究は、経済モデル、人口サブモデル、財政サブモデルから成る「NCU名古屋2000モデル」によって少子高齢化の経済学的な影響を2010年までの期間について予測したものである。樋口氏が問題点を整理したオッズ比分解法は、国内人口移動との関係が深い。寿崎氏と熊田氏の研究では、保育園を利用する父母および保育園園長を対象とした調査が行われており、地方自治体が建造物とサー

ピストを総合的にとらえて子育て支援を行うことが提案されている。伊藤氏は、民間法人企業所得等を含む分配所得の格差と個人所得の格差のそれぞれによって戦後日本の国内人口移動を説明することを試み、両者の純移動に対する説明力に差がないことをみいだした。金氏と林氏の研究は、現在多くの地方都市で生じている中心市街地の衰退に注目している。

また、これらの研究報告のそれぞれについて討論者2名が予め選ばれており、活発な質疑応答が行われた。
(今井博之記)

2000年度人文地理学会大会

2000年度人文地理学会大会が2000年11月11～13日、立命館大学（京都市）において開催された。特別発表4件のほか、6会場において計81件の口頭発表が行われ、人口関連分野についても多数の報告がなされた。以下に主なものを紹介する。

- | | |
|--|-----------------|
| 「中年シングル男性を疎外する「空間」 | 村田陽平（京都大学・院） |
| 「東京圏におけるシングル女性の居住地移動」 | 木下礼子（神奈川県立和泉高校） |
| 「大都市における単身者用分譲マンションの供給 - シングル女性の住宅購入」 | 由井義通（広島大学） |
| 「結婚に伴う職住関係の変化 - 浦和市居住者の事例」 | 谷 謙二（埼玉大学） |
| 「大都市圏郊外地域における若年者の就業パターン」 | 稲垣 稜（名古屋大学・院） |
| 「京都市の歴史的な中心市街地における空間変容と人口動向」 | 藤塚吉浩（高知大学） |
| 「山村への移住とその要因」 | 豊国利佐（大阪教育大学・院） |
| 「幕末・維新时期開港居留地における人口集積 - 横浜本町五丁目のケーススタディ」 | 鷲崎俊太郎（慶應義塾大学） |
| 「産業革命期における県庁所在都市山形の都市住民構成に関する一考察」 | 葛西大和（山形大学） |
| 「日本本土における沖縄出身者の居住地展開」 | 當山清朝（立命館大学・院） |

今回上記のように、シングル女性（男性）とその居住地（空間）との関係について調査分析を行った研究の報告が続いた。いずれも既存の統計資料からでは把握が困難な事象の解明を目指したもので、夫婦と子どもからなる世帯など、これまで取り上げられることの多かった他の世帯類型との挙動の違いが報告されており、関心を集めていた。
(江崎雄治記)

第73回日本社会学会大会

第73回日本社会学会大会は、広島国際学院大学において11月11日～12日の両日開催された。一般研究報告は前回より大幅に増え、71部会で365本の報告が行われた。また2000年記念シンポジウムとして、「系譜の横断 19世紀/20世紀」「社会学は役に立つのか 社会問題群と社会学」の2本のシンポジウムが開催された。

本研究所からは「研究法・調査法2」部会で小島宏（国際関係部長）が「人工妊娠中絶申告の関連要因」と題して報告した。また「人口・家族」部会で鈴木透（国際関係部第三室長）が「高齢者の居